

だれもが住みよい県央の中核都市”を目指します

地元で活躍している人や団体を紹介します

「NPO法人緑と水の連絡会議」（理事長高橋泰子さん 会員数80人）は、1992年に任意団体として活動を開始、国立公園三瓶山の草原景観を保全する活動（第2回全国草原サミットの誘致）などの環境保全を核に、大田市内の炭焼き窯の調査などの地域再発見を進め、2003年にNPO法人認証を受け、その後はまちづくりや子どもの育成・福祉を活動分野として加え、大田圏域で事業を展開しています。問い合わせ 大田市大田町大田イ376番地1 Tel0854(82)2727
http://www.iwami.or.jp/ohgreen/

三瓶草原の維持のための野焼き
イバラ刈り

ボランティアを募り、季節の風を楽しみながら汗を流しています。レンゲツツジや放牧牛を見ながら西の原の広さを実感できます。企業・グループでの参加も歓迎！



イバラ刈りボランティアの皆さん

バイオマス・チップボイラー

近年脚光を浴びているバイオマス利用。平成15年に認知症高齢者のためのグループホーム七色館（大田町）を開設し、ここに地元産の木材チップを燃やすボイラー施設を導入しました。民間施設で24時間稼働の実績は日本初のため全国から視察が絶えません。

認定NPOになろう

確たる収入源のない環境NPOを維持するため、積極的に寄付金を募って活動の輪を広げようと、国税局の「認定NPO法人」取得を目指しています。認定されると寄付金が税額控除に認められるもので、広島国税局管内の初認定を得ようとチャレンジ中！



里山インターンシップで大田市を訪れた学生

里山インターンシップさんべ

2003年度から毎年夏に大学生を公募して7泊8日の農林漁業体験合宿を開催しています。農家などに民泊する産業体験カリキュラムが人気です。都市部の大学生の驚きや感激する姿にふれて、受入側も地元の魅力を再認識できます。2006年度夏も募集中です。



げんこつ山の竹刈りの説明を聞く参加者

三瓶町上山の田んぼと
「山帰来（さんきらい）」

長く耕作されていなかった水田で、ボランティアの仲間たちと地元の方々のご支援で米作りをしています。田植え祭と収穫祭には大勢の人が集まります。会員は農業体験施設「山帰来」の宿泊利用も可能です。

げんこつ山プロジェクト

三瓶ダムに隣接する山林を借りて、里山景観復元のための竹刈りを始めました。今年はその舞台に、温泉津小学校の子どもたちと季節ごとの山の恵みを体験する教室を連続開催しています。

ちようど私が大阪から故郷にUターンした2000年春、西の原の野焼きと放牧牛の推進イベントに参加して、大田にもユニークな環境団体があったことを知り、活動をともにするようになりました。

2003年にはそれまでの任意団体からNPO法人の認証を得ようという展開となり、前職の経験を生かして事務局長を拝命しました。私の本業の山仕事は、癒しを求める趣味の延長で飛び込んだ世界なので、お氣楽にやっています。かたや環境NPOはボランティアが求められるようになり、奇妙な逆転現象です。仕事で身につけた技術を地域社会に生かす方法のひとつなのでしょう。



NPO法人
緑と水の連絡会議
事務局長 和田譲二さん

旧大田市の「どがなかな大田市です!!」創刊号の「シリーズ」で紹介した和田譲二さんです！